

# 涙の預言者

シリーズ～預言者の声～

2022/8/14

# 南ユダ王国の王たち(後期)

- ヒゼキヤ(BC729-687) 善王
- マナセ(684-643) 悪王 / 善王
  - アッシリアに連行されて悔い改め善王として統治
- アモン(643-641) 悪王
- ヨシヤ(641-609) 善王
  - エレミヤの召命(ヨシヤ王の第13年)
- ヨアハズ(609)
- ヨヤキム(609-598) 悪王 > 兄弟
- ヨヤキン(598) 悪王
- ゼデキヤ(597-586) 悪王 > 兄弟

# エレミヤの召命

エレミヤの言葉。彼はベニヤミンの地のアナトトの祭司ヒルキヤの子であった。

主の言葉が彼に臨んだのは、ユダの王、アモンの子ヨシヤの時代、その治世の第十三年のことであり、更にユダの王、ヨシヤの子ヨヤキムの時代にも臨み、ユダの王、ヨシヤの子ゼデキヤの治世の第十一年の終わり、すなわち、その年の五月に、エルサレムの住民が捕囚となるまで続いた。

主の言葉がわたしに臨んだ。「わたしはあなたを母の胎内に造る前から／あなたを知っていた。母の胎から生まれる前に

わたしはあなたを聖別し／諸国民の預言者として立てた。」

わたしは言った。「ああ、わが主なる神よ／わたしは語る言葉を知りません。わたしは若者にすぎませんから。」しかし、主はわたしに言われた。「若者にすぎないと言ってはならない。わたしがあなたを、だれのところへ／遣わそうとも、行って／わたしが命じることをすべて語れ。彼らを恐れるな。わたしがあなたと共にいて／必ず救い出す」と主は言われた。

(エレミヤ書1:1-8)

# エレミヤ書の特徴

- 筆記者が分かっている
  - 「エレミヤはネリヤの子バルクを呼び寄せた。  
バルクはエレミヤの口述に従って、主が語られた言葉をすべて巻物に書き記した。」36:4
- 並列法・交差配列法による記述
  - A プロローグ(1)
  - B ユダに対する宣告(2-25)
  - C エレミヤに起こった出来事1(26-29)
  - **D 慰めの言葉(30-33)**
  - C' エレミヤに起こった出来事2(34-45)
  - B' 諸国に対する宣告(46-51)
  - A' エピローグ(52)

# 交差配列法(3:14~18)

- A わたしはあなたたちを連れてシオンに行こう。14
- B わたしはあなたたちに、心にかなう牧者たちを与える。15
- C 人々はもはや、主の契約の箱について語らず、心に浮かべることも、思い起こすこともない。16
- B' その時、エルサレムは主の王座と呼ばれ17
- A' その日、北の国から共に帰って来る。18

Chiastic structure

ギリシャ語のX(カイ)に由来する

# 交差配列法(3:14~18)

A わたしはあ、あなたたちを連れてシバに行こう。14

B わたしはあ、あなたたちに、心豊かなう牧者たちを与える。15

C 人々はもはや、契約の箱について語らず、心に浮かべるものも起すこともない。16

B' その時、エルサレムは主の王座と呼ばれ17

A' その日、北の国から共に帰ってくる。18

Chiastic structure

ギリシャ語のX(カイ)に由来する

# エレミヤの時代

- 異教崇拜

- 「ユダよ、お前の町の数ほど神々があり、お前たちはエルサレムの通りの数ほど、恥ずべきものへの祭壇とバアルに香をたくための祭壇を設けた。」11:13

- 誤った選民思想（神殿理解）

- 「主の神殿、主の神殿、主の神殿という、むなししい言葉に依り頼んではならない。」7:4

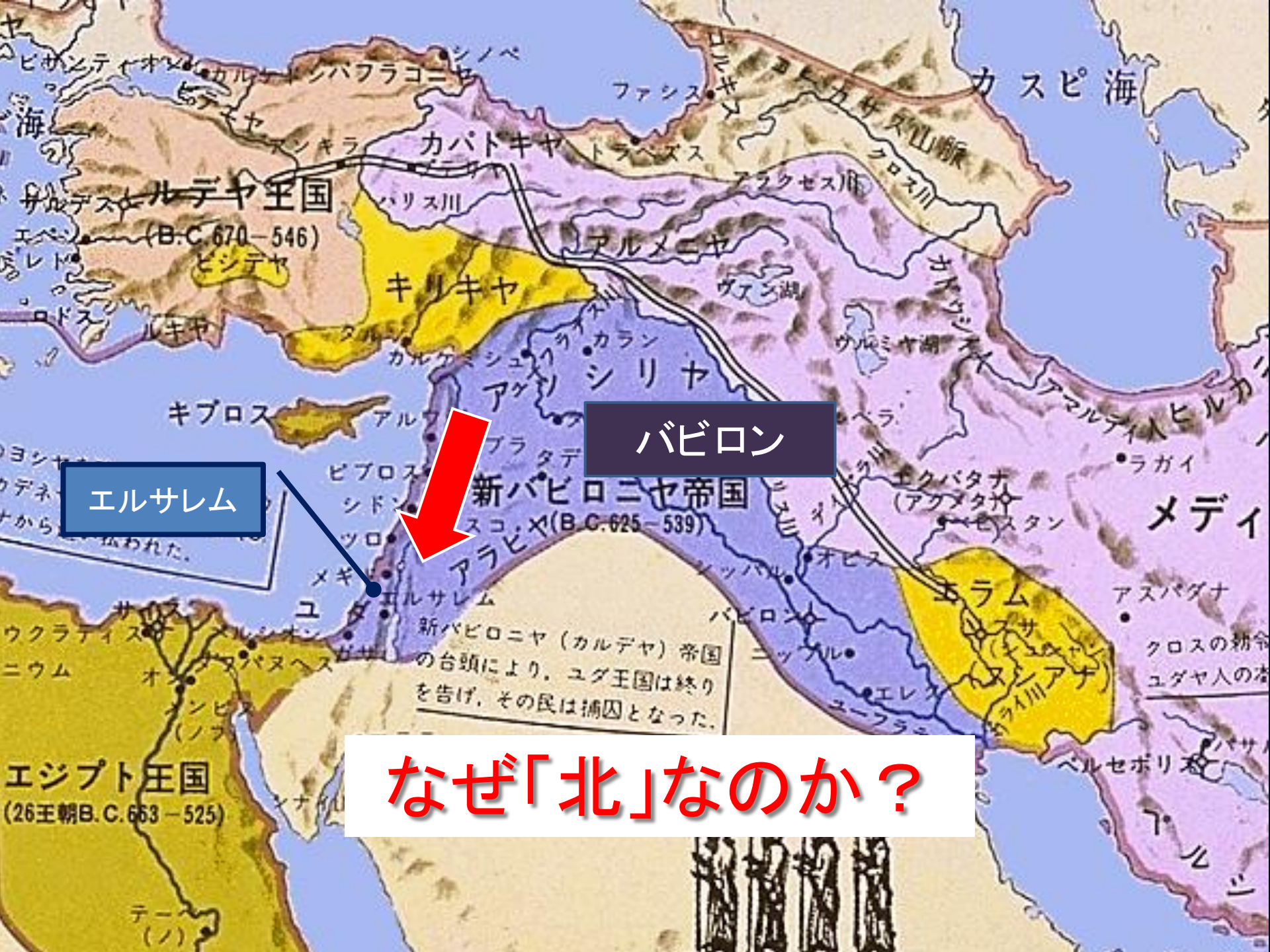
- 偽預言者の横行

- 「預言者の言葉はむなしくなる。『このようなことが起こる』と言っても／実現はしない。』」5:13



# 北(の国)の脅威

主の言葉が再びわたしに臨んで言われた。「何が見えるか。」わたしは答えた。「煮えたぎる鍋が見えます。北からこちらへ傾いています。」主はわたしに言われた。北から災いが襲いかかる／この地に住む者すべてに。北のすべての民とすべての国に／わたしは今、呼びかける、と主は言われる。彼らはやって来て、エルサレムの門の前に／都をとりまく城壁と／ユダのすべての町に向かって／それぞれ王座を据える。わたしは、わが民の甚だしい悪に対して／裁きを告げる。彼らはわたしを捨て、他の神々に香をたき／手で造ったものの前にひれ伏した。(1:13-16)



エルサレム

バビロン

なぜ「北」なのか？

新バビロニア (カルデア) 帝国の台頭により、ユダ王国は終りを告げ、その民は捕囚となった。

# 最終宣告

ユダの王、ヨシヤの子ヨヤキムの第四年に、ユダの民すべてについてエレミヤに臨んだ言葉。その年は**バビロンの王ネブカドレツアル**の第一年に当たっていた。預言者エレミヤは、ユダの民とエルサレムの住民すべてに次のように語った。「ユダの王、アモンの子ヨシヤの第十三年から今日に至るまで二十三年の間、主の言葉はわたしに臨み、わたしは倦むことなく語り聞かせたのに、お前たちは従わなかった。主は僕である預言者たちを倦むことなく遣わしたのに、お前たちは耳を傾けず、従わなかった。（25:1-4）

見よ、わたしはわたしの僕バビロンの王ネブカドレツアルに命じて、北の諸民族を動員させ、彼らにこの地とその住民、および周囲の民を襲わせ、ことごとく滅ぼし尽くさせる、と主は言われる。そこは人の驚くところ、嘲るところ、とこしえの廃虚となる。わたしは、そこから喜びの声、祝いの声、花婿の声、花嫁の声、挽き臼の音、ともし火の光を絶えさせる。この地は全く廃虚となり、人の驚くところとなる。これらの民はバビロンの王に**七十年の間仕える**。七十年が終わると、わたしは、バビロンの王とその民、またカルデア人の地をその罪のゆえに罰する、と主は言われる。そして、そこをとこしえに荒地とする。 (25:9-12)

# バビロン捕囚

- 1回目(ヨヤキム王の4年／BC605年)

- 「ユダの王ヨヤキムが即位して三年目のことであつた。バビロンの王ネブカドネツアルが攻めて来て、エルサレムを包囲した。主は、ユダの王ヨヤキムと、エルサレム神殿の祭具の一部を彼の手中に落とされた。ネブカドネツアルはそれらをシニアルに引いて行き、祭具類は自分の神々の宝物倉に納めた。」

(ダニエル1:1-2)

- 2回目(ヨヤキム王の11年／597年)

- 「ヨヤキムは二十五歳で王となり、十一年間エルサレムで王位にあつた。彼は自分の神、主の目に悪とされることを行つた。その彼をバビロンの王ネブカドネツアルが攻めて来て、青銅の足枷をはめ、バビロンに引いて行つた。」

(列王記下36:5-6)

# バビロン捕囚

- 3回目(ゼデキヤ王11年／586年)

- 「ゼデキヤは二十一歳で王となり、十一年間エルサレムで王位にあった。彼は自分の神、主の目に悪とされることを行い、主の言葉を告げる預言者エレミヤの前にへりくだらなかつた。…イスラエルの神、主に立ち帰らなかつた。…主はカルデア人の王を彼らに向かつて攻め上らせられた。彼は若者たちを聖所の中で剣にかけて殺し、若者のみならず、おとめも、白髪の老人も容赦しなかつた。主はすべての者を彼の手に渡された。彼は神殿の大小の祭具のすべて、主の神殿の宝物も、王とその高官たちの宝物も残らずバビロンに持ち去った。**神殿には火が放たれ、エルサレムの城壁は崩され、宮殿はすべて灰燼に帰し、貴重な品々はことごとく破壊された。**」

(列王記下36:12～19)

# 涙の預言者

わたしの嘆きはつのもり／わたしの心は弱り果てる。  
見よ、遠い地から娘なるわが民の／叫ぶ声がある。  
「主はシオンにおられないのか／シオンの王はそこ  
におられないのか。」

なぜ、彼らは偶像によって／異教の空しいもの  
によって／わたしを怒らせるのか。刈り入れの時は過  
ぎ、夏は終わった。しかし、我々は救われなかった。  
娘なるわが民の破滅のゆえに／わたしは打ち砕か  
れ、嘆き、恐怖に襲われる。…

わたしの頭が大水の源となり／わたしの目が涙の  
源となればよいのに。そうすれば、昼も夜もわたしは  
泣こう／娘なるわが民の倒れた者のために。

(8:18-23)